口永良部島の全島避難成功から学ぶ

▲撮影：口永良部島　二神尚子さん（朝日新聞デジタル）

（毎日新聞、朝日新聞ほか）鹿児島県・口永良部島（くちのえらぶじま・屋久島町）の新岳（しんだけ）噴火では、**約6時間で完了した全島避難が注目されました。**

それは、昨年8月の噴火を教訓とした学校や町の備えと、島民が築いてきたコミュニティーの成果でした。

来る災害にどのように向き合い、いかに生き延びるか。口永良部島の皆さんの、それぞれの立場での「備え」に注目しました。

学校

午前9時59分。噴火のごう音を聞き、金岳（かながだけ）小・中学校の校舎の外に出た木尾（このお）良文校長（53）の目に飛び込んできたのは、迫る黒煙だった。

「逃げろ。避難だ」教師の声が響く。小中学生15人は、机の横に掛けてあるヘルメットをかぶると、校舎脇に縦列で並んだ車に向かい、6台に次々と乗り込んだ。

教職員の多くが住む**教職員住宅は、学校から数十メートルで歩いて通える距離だ。しかし「子供たちが少しでも早く避難できるように」と教職員同士で話し合ってあえて車で出勤。すぐに出られるよう正門に頭を向けて駐車しておくことにしていた。避難を決めてから全員が学校を出るまで、わずか3分だった。**

校長によると、昨年8月の噴火以来、島全体の避難訓練とは別に、学校独自に3回訓練した。**噴火の大きな音にも動揺しないように教師が太鼓をたたいた。**普段から登下校時や隣の体育館へ行く時でも、ヘルメットを持たせた。校長は「スムーズな避難ができたのは噴火を具体的に想定した訓練や準備のおかげ」と話す。

地域

「善おじ見たか?」住民を高台の番屋ケ峰（ばんやがみね）へ誘導していた、地元消防団の貴船（きぶね）森さん（43）は、近くに暮らす渡辺善一さん（72）の姿が見えないことに気付いた。渡辺さんの家は火砕流が流れた方向にある。すぐに車を走らせたが、倒木と火山灰に道を阻まれた。

連絡を受けて同じ消防団の久木山栄一さん（36）らが船で向かい、家で灰をかぶっていた渡辺さんを救助した。

消防団は普段から、地区内の高齢者や足腰の弱い人、車を持たない人などを把握している。本村地区に住む渡辺一美さん（83）と妻の和子さん（79）も避難途中に助けられた。貴船さんは「島には警察も消防署もない。住民で作る消防団が命を預かっているという思いがあった」と振り返る。

善一さんが番屋ケ峰に姿を見せると、島民たちは「よかった、よかった」と声を上げバンザイした。午前11時25分。最後の避難者の到着だった。住民らは全員が午後5時半までに屋久島へ渡った。

町政

屋久島町の地域防災計画は当初、島に点在する避難施設や町役場出張所などを避難場所に指定していた。しかし**昨年8月の噴火では、住民のほとんどが「消防団のとっさの指示で」（町幹部）標高の高い番屋ケ峰に避難した。**

町には住民から「今の避難場所では危ない」という声が寄せられた。**町はすぐに計画を見直し、避難場所を番屋ケ峰に一本化。11月には島民の約7割が参加して、ここへ向かう初めての訓練も実施した。**

また、噴火の数日前、町は島民が避難するための屋久島町営フェリーについて、百人だった船の定員数を全島民が一度に乗船できるよう**150人に一時変更することを申請していた。**申請を受理した国土交通省九州運輸局が検討を続けていたが、29日の噴火を受けて**すぐに変更を認めたため、ヘリコプターで救助された湯向地区の6名を除く全島民が、一隻のフェリーで避難することができた。**

<口永良部島・基本情報> ※2000年国勢調査、SHIMADAS等による

大きさ　面積38.04km²、周囲49.67km
最高点　657m（古岳）
人口　137人（82戸）
集落　6ヶ所（島の中心の本村集落に人口の大半が集中）
学校　小学校1、中学校1（いずれも生徒数は各学年1桁）
主な産業　畜産

ヘルメットに子猫を入れて避難（Twitterより）
※本当は自分がヘルメットをかぶらなくてはいけない▶

「噴火」という災害は、地震や津波などとはいろいろと違いがあります。また、口永良部島もわたしたちの住む地域とは共通点もあれば相違点もあります。しかし、島民がそれぞれの立場で柔軟に工夫して備えた結果、全員がわずか6時間で避難することができました。この偉大な先達の知恵を、いかに自分の地域に生かすか、ささやかでもできることはいろいろあるのではないかと感じました。　一日も早く噴火が収束し、全員が無事に帰島できるようお祈りいたします。

資料：朝日新聞デジタル、毎日新聞、産経新聞、Wikipedia、Twitter

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）

we support↓
RQ 災害教育センター
MONTHLY
「東北に黒船を送ろう！大作戦しんぶん」改め
復興支援 かわらばん『すけさきた』しんぶん
「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である
JUNE 11 2015